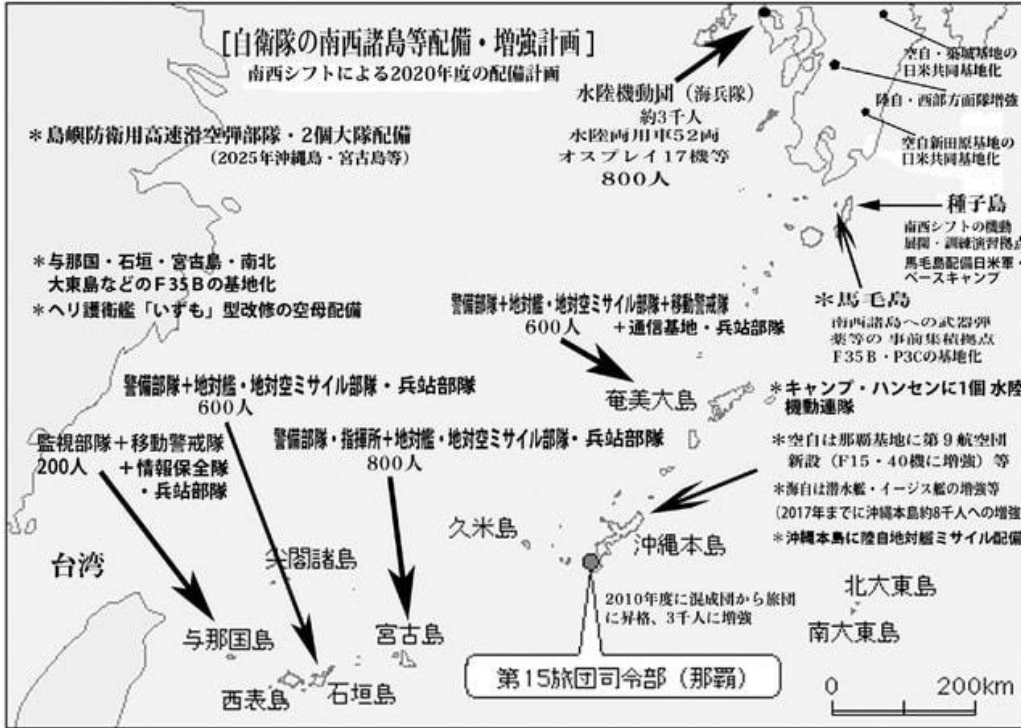
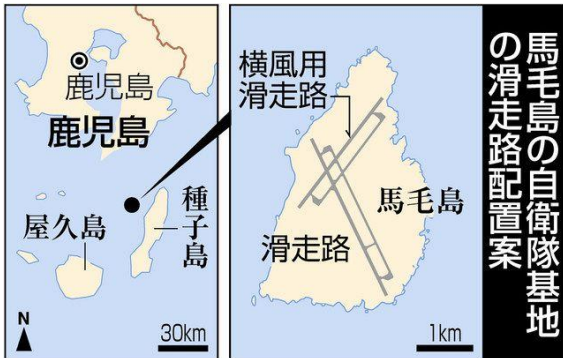


# ミサイル基地化する南西諸島

「対中脅威論」が叫ばれる中、長崎県佐世保から種子島、奄美大島、沖縄本島、宮古島、石垣島、与那国島にかけて、いわゆる第一列島線に位置する島々に、ミサイル部隊が配備されています。このような状況はミサイル軍拡競争に発展し、南西諸島を再び戦争の危機にさらしています。戦争の危機を煽る自衛隊の配備に反対しましょう



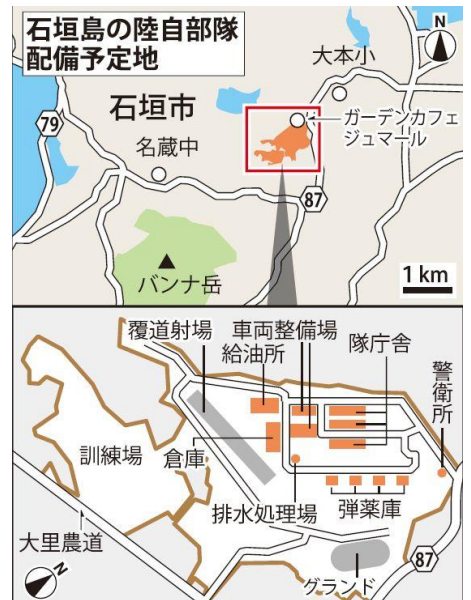
佐世保の相浦駐屯地に配備された島嶼防衛を主任務にする水陸起動団。日本版海兵隊と呼ばれる。写真は、2020年1月、沖縄ブルービーチで米海軍と海兵隊との共同訓練を実施。



奄美大島は奄美駐屯地、瀬戸内分屯地。地对艦ミサイル中隊を配備。奄美駐屯地の面積は約50ha。瀬戸内分屯地は48haで31haは大規模弾薬庫。

馬毛島は米軍訓練 FCLP 移転を名目に種子島と併せ自衛隊の拠点化を図る。2022年度の着工・24年度末工事完了、25年度には米軍 FCLP 運用開始予定。

石垣島は、対艦、対空ミサイル部隊約 600 人を配備。2019 年工事着工。住民の根強い反対運動が起きている。



宮古島は、地对艦地对空ミサイル部隊と警備部隊800人を配備。保良地区に弾薬庫建設。弾薬庫は反対運動のため未完成。

